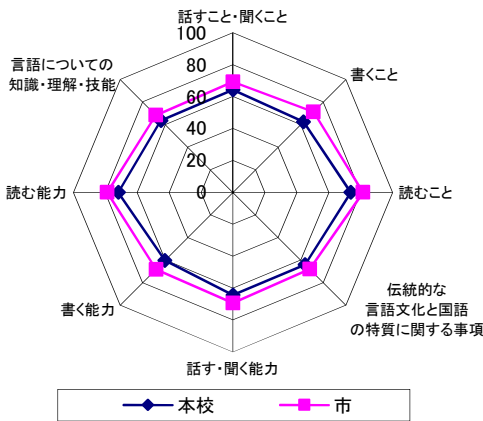


宇都宮市立清原東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	64.3	69.3	73.4
	書くこと	62.5	71.3	74.6
	読むこと	73.9	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.9	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	64.3	69.3	73.4
	書く能力	60.3	68.1	71.7
	読む能力	71.9	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	63.8	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

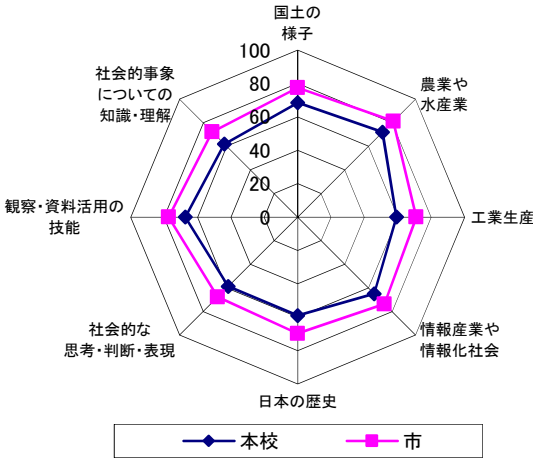
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○話し手の意図を考えながら、話合いの内容を記述でまとめる問題では、市の平均正答率を上回っている。学習の中で、必要な言葉を使って短文でまとめることを繰り返し行った成果であると考えられる。 ●話し手の工夫を考えながら、話合いの内容を聞き取る問題では、市の平均正答率より10%以上低い。話を聞く際に、話し手の伝えたい内容を汲み取りながら聞くことに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・相手が話しているときに、ただ聞くだけでなく、話し手の伝えたいことは何か考えながら聞くことができるように指導する。 ・各教科や学級活動などにおいて話合いを進める中で、司会者の役割として「計画的に話し合う」ことを意識して行えるように進行の仕方を掲示したり、いつでも手元で確認できるようにカードを作成したりして、無理なく身に付けさせられるように指導する。
書くこと	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○国語辞典の資料を使って、意見文に書く内容を選択する問題では、市の平均正答率を上回っている。常日頃から国語辞典を活用している成果であると考えられる。 ●記述式で作文する問題においては、どれも市の平均正答率を大きく下回っている。無回答率も高く、書くことへの苦手意識が高い児童が多いことが分かる。	・授業中に自分の考えや選んだ理由などを書く活動や伝える活動を多く取り入れ、書く内容をよく理解して取り組めるようにし、相手を意識した文章が書けるよう指導する。 ・朝の学習や家庭学習などで自由作文などを取り入れ、気軽に文章を書く活動に取り組みせ、文章を書くことに抵抗感をなくすようにしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ●物語の内容や説明文の内容を読み取る問題はどれも市の平均を大きく下回っており課題が見られる。初めて読む文について読み取る経験値の少なさが問題ではないかと思われる。	・短文の物語文、説明文を読み取る問題を数多く経験させ、問題慣れするように指導していく。 ・今後も、読書や読み聞かせの機会を取り入れ、多くの書物に触れさせるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○他領域に比べて、市の平均正答率との差は少ない。漢字ドリルを活用し繰り返し練習したり、漢字オリンピックに向けて練習する機会を多く設けていることが成果と考えられる。 ●全般的に日常的に漢字を書く意識が低く、苦手意識が高い児童が多いことに課題が見られる。	・今後も、漢字ドリルなどを利用して繰り返し漢字の練習に取り組ませていく。 ・どの教科の学習においても、既習の漢字を必ず使わせるなど日常的に漢字を使う機会を多く取り入れるようにし、漢字を使うことに抵抗感をなくすようにしていく。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	68.6	77.5	74.0
	農業や水産業	72.0	81.1	73.7
	工業生産	59.3	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	65.0	73.7	63.2
	日本の歴史	58.9	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	58.7	67.7	63.1
	観察・資料活用 の技能	67.2	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	62.0	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

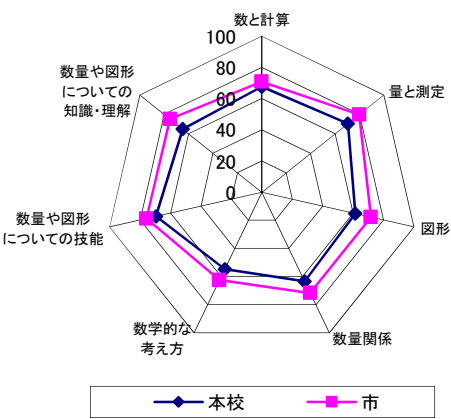
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○林業にかかわる問題の正答率は市の平均とほぼ同じになっており、よくできている。 ●日本の周辺の海洋名や国を理解している児童が少なく、正答率が6割以下に留まる問題もあった。	・林業など総合の環境問題と絡めて学習した内容についてはよくできているが、国や海洋など知識力が足りない。そのため補充プリントで定着を図ったり、教室に世界地図などを掲示したりして、児童が目にする機会を増やしていく。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○米の生産の盛んな地域や食料自給率の問題の資料の読み取りについては比較的よくできている。 ●農業で働く人々が抱える課題について資料から読み取り、考えて表現することが正答率が低く、無回答率も高い。	・資料から分かったことや他の資料と関連付けて分かったことを、理由や根拠を明らかにしてまとめたり説明したりする活動を継続的に行うことで、思考力や表現力、資料を読み取る力を伸ばしていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ●化学工業の製品についてと工業地帯・工業地域については二極化が見られる。	・化学工業製品についてイメージがしづらい部分があるので、具体例を多く出すなどして児童の認識を整理したい。 ・5年生の学習では、日本と他国を比較して考えることで日本の工業生産の特徴を考えられるようにする。地図帳や資料集を積極的に活用する。 ・6年生の歴史の学習では、文明開化後の殖産興業や高度経済成長から工業生産について5年生の学習内容を復習できるようにする。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○個人差は見られるものの身の回りのマスメディアについての理解は市の平均と大きく変わらない。 ●医療における情報ネットワークの利便性についての資料の読み取りについて市の平均と10ポイント以上開きが見られる。	・情報ネットワークやインターネットの利便性を自分たちの経験や生活の中から見つけたり、メリットやデメリットを考えたりすることでネットの利便性や特徴について理解を深められるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ●竪穴住居や仏教などの基本的な知識を問う設問の正答率が低い。 ●織田信長の動きや江戸時代のきまりなどについて資料から読み取り考えるという設問について課題が見られる。 ●二極化が見られる。	・歴史上の人物が行った政策や歴史上の出来事について、その時代の様子や人々の生活、時代の変化などと関連付けて考えることで、政策の意図や出来事の背景を捉えられるようにする。 ・補充プリントなどで繰り返し学習する。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	67.7	70.8	65.9
	量と測定	70.5	79.9	77.0
	図形	61.4	71.8	74.6
	数量関係	63.3	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	54.7	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	69.6	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	64.9	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

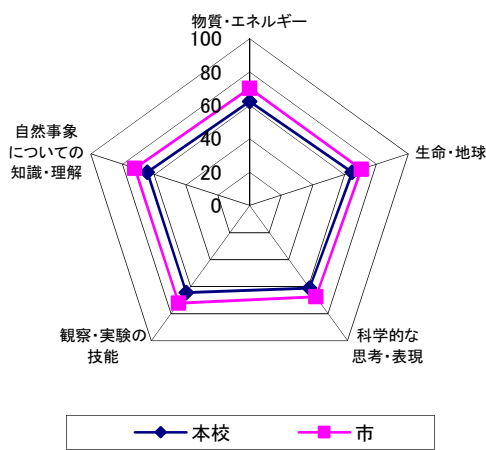
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、他の領域より高い。 ○分数のたし算(通分)、分数の掛け算・割り算については市の平均正答率より高く、よくできている。宿題や朝の学習を活用して、繰り返し計算練習を行った成果であると考えられる。 ○問題場面を理解し、求めた答えが示された条件と矛盾することを説明することができた。授業の中で、自分の考えを説明する活動を積極的に取り入れてきた成果であると考えられる。 ●分数の除法の文章問題を表した図を選んだり、図から正しい式を導き出したりすることに課題が見られる。	・基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していく。 ・問題解決をするときの手段として、各学年の授業で、図をかいたり数直線を用いたりして数量関係を視覚的に捉えて考え、立式できるように指導する。 ・今後も自分の考えを書く活動と伝える活動を多く取り入れ、筋道を立てて説明する力を育てる。また、学年に応じた説明の言葉の指導も取り入れる。
量と測定	平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。 ○道のりとかかった時間から時速を求めることや値に0がある場合の平均を求めることができた。 ●直方体を組み合わせた体積を求めることや円と正方形を組み合わせた図形の面積を求めることに課題が見られる。	・今後も、問題解決をするときの手段として、各学年の授業で、図をかいたり数直線を用いたりして数量関係を視覚的に捉えて考え、立式できるように指導する。 ・図形の面積や体積を求める公式など、各学年で学習する内容を確実に身に付けられるように、繰り返し指導する。
図形	平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。 ○点対称な図形の対応する点を選ぶことがよくできた。 ●2つの角が与えられた三角形の一つの外角を求めたり、五角形の内角の和を求めたりすることに課題が見られる。	・各学年の授業で、体験的・操作的活動を通して図形の定義や性質を考え、自分の言葉で説明し合うなどの言語活動を取り入れて、図形の知識を定着させる。 ・朝の学習や家庭学習で、繰り返し問題に取り組ませる。
数量関係	平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。 ○比例の関係を、xとyを使って式に表したり、一方の文字の値から他方の文字の値を求めたりすることができた。 ●グラフからもとにする量と割合を読み取って、もとにする量が同じとき、割合が大きい方が比較量が多くなることを説明することに課題が見られる。	・問題文から読み取ったことを図や表、数直線に表して数量関係を式に表し、自分の考えを説明し合う活動を多く取り入れる。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.3	70.3	69.0
	生命・地球	64.7	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	61.2	67.5	66.4
	観察・実験の技能	64.4	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	64.4	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均正答率に比べて低い。 ○「振り子の1往復の動き」や「空気中の気体の体積の割合」は、比較的よく身に付いている。 ●「振り子の長さから周期を判断する」「実験結果から水溶液を考える」など、学習したことを使って考える問題でのつまづきが目立った。	・基本的な実験結果についてはある程度身に付いているが、獲得した知識を活用して考える問題に苦手な様子が見られるので、補充問題などで繰り返し練習をして、問題に慣れることができるようにしたい。
生命・地球	平均正答率は市の平均正答率に比べて低い。 ○「植物のつくりとはたらき」の実験結果や「生物と空気の関わり」「太陽に見られる特徴」は、比較的よく身に付いている。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」での用語の定着に課題が見られる。	・日常の中で触れる機会が少ない用語の定着に課題が見られるので、学年末等に学習の振り返りを行い、思い出させるとともに、自主学習としても取り組ませていきたい。

宇都宮市立清原東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本を確実に身に付けさせる指導の工夫	・分かる授業の展開(効果的な発問・助言・指示・課題提示からまとめまでの板書の工夫、教材・教具の工夫等) ・朝の学習の充実 ・「漢字・計算オリンピック」の実施(年3回)	・算数の「数と計算」の領域では、市の平均正答率をやや下回るものの、分数の足し算(通分)、分数の掛け算・割り算については市の平均正答率より高く、よくできた。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・7月と11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間を記入したり、保護者の励ましや助言などを書いてもらったりして提出するよう指導する。	・3～6年生では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は市の平均をやや下回るものの、5・6年生については、昨年に比べて大きく上回る結果となった。 ・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は、市の平均を上回り、昨年に比べて大きく上回っている。
自分の考えをもち、説明する力を付けさせる指導の工夫	・自分の考えを書く場を多く設定し、「書く」ことの習慣化を図る。 ・根拠を明確にして自分の考えを表現できるように、手順を示すなどして書き方や説明の仕方を丁寧に指導する。 ・学習形態(ペア・グループ)を工夫し、互いの考えを伝え合う活動を多く取り入れる。	・記述式設問においては、どれも市の平均正答率を大きく下回っている。無回答率も高い。 ・「グループの話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的に回答した児童の割合は、低学年と高学年で市の平均を上回り、昨年に比べて数値が大きく上回った学年も見られる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県の調査とともに算数の「数と計算」の領域において平均を下回っていたが、市の調査では、4月の全国学力調査の結果と比べて差が縮まっている。分数の足し算(通分)や掛け算・割り算では、市の平均正答率を上回った。次年度も継続して、朝の学習や家庭学習の充実を図ったり、前学年までの内容を復習する機会を設定したりするなどして、基礎・基本を確実に身に付けさせる指導を行う。

・市の調査において、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は市の平均をやや下回るものの、5・6年生については、昨年に比べて大きく上回り、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は、市の平均を上回り、昨年に比べて大きく上回る結果となった。6年生では、国の調査について、1日当たりの家庭学習時間1時間以上と回答した児童は64%であったが、市の調査では、74%に増加した。次年度は、引き続き「家庭学習強化週間」を実施し、学年に応じた自主学習に取り組む指導を充実させる。

・4～6年生は、国・県・市の調査とともに記述式設問の無回答率が市の平均と比べて高く、「書く」ことへの苦手意識の強い児童が多く見られる。次年度も継続して、自分の考えを書く場を多く設定するなど自分の考えを分かりやすく表現する指導を充実させ、「書く」ことへの抵抗感をなくしていくように努める。